

2024

1.10 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_ibyPEb59RkO-BGcGFD19bQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

21 世紀の北極圏：

気候変動、大規模資源開発、先住民族文化の狭間で

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

アラスカ先住民族

生存狩猟・漁労

野生動物管理

持続可能な開発

環境人類学

生田 博子 准教授

留学生センター



神奈川県鎌倉市出身。専門は人類学で、米国アラスカ大学と同大学院を卒業後、英国スコットランドのアバディーン大学で博士号を取得しました。米国ダートマス大学極地研究所などを経て、アラスカ州政府野生動物管理局で、アラスカにおける先住民族を中心とする生存漁労・狩猟、気候変動や石油・天然ガスなど大規模資源開発が野生動物や人々に与える影響、米国政府の野生動物管理政策などに従事しました。アラスカ在任期間は18年になります。2016年に九州大学に着任しました。

北極圏は、気候変動の最前線です。アラスカでは、野生動物を日々の食卓にのせるために生存狩猟をする人々がいる一方で、グローバル経済、米国資本主義社会の一部として、州の収入の80%を占める石油開発を始め、天然ガス、金鉱等の資源開発が州の経済を支えています。本セミナーでは、米国連邦政府、アラスカ州政府、先住民社会が、どのように北極圏の温暖化に向き合い、野生動物の保護、持続可能な資源開発、先住民文化の保存に取り組んでいるのかをご紹介します。